



撮影地/(農)グリーンファーム寺田の作業場

寺田地区(八幡)の持続可能な農業を見つめる



菅 農事組合法人グリーンファーム寺田では主食用米を17ha作付けしていますが、既存ハウスでの育苗は限界が近づき、直播栽培や密苗^{みつなえ}などを検討する時期に入っています。

組 新技術は注目されていますね。

菅 千俵の会の懇談会で、密苗は10a当たり苗箱12、3枚で済み、既存ハウスで作付け面積を約2倍に拡大できると学びました。

組 菅原さんは水稻を法人で、園芸を個人で取り組まれているのですね。

菅 法人は平成27年3月に立ち上げ、組合員は8人で倉庫とカントリーエレベーターの利用者がいます。水稻と大豆を生産し、育苗から栽培管理は個人ごとに行っています。米の精算はJAの「法人経理支援システム」を利用し、コンバイン2台と田植機2台を法人所有、トラクターは個人所有で4台あります。私個人としては園芸にも取り組んでいます。ここから見えるハウス13棟でミニトマト「トマトベリー」や長ねぎ、きゅうり、メロンなどを栽培し複合経営をする専業農家です。家族だけでは手がまわらないので、地区の女性たちからアルバイトに来てもらっています。

組 本来であれば、法人として栽培管理を全部オープンにして、労力配分しながら作物を選定し、拡大を図るのが一つの経営の形ですが、この法人経営のやり方も良い手法なのではないでしょうか。

菅 JA管内では若手の後継者があちこちで出てきているようですね。

組 JAでは園芸生産拡大事業を推進し、ミニトマトやアスパラガスなどの生産者が少しずつ増え、芽が出てきていると感じています。

菅 法人組合員の1人も今年、JAの同事業を活用して、ミニトマト「ピンキー」の園芸ハウスを建てます。出資配当もいいのですが、JAが園芸拡大の基盤を

作り、生産者が所得拡大できるような育てることができれば素晴らしいと思います。

組 もっと園芸に取り組む生産者が、水稻中心の生産者から出てもらいたいです。

菅 組合長にお願いしたいのは、高齢化が進み担い手不足で、春と秋作業には特に労働力が足りません。長ねぎの共選施設のようにJAが人材を雇用して、春と秋作業などスポット的な人材派遣はできませんか。

組 JAの総合対策室で雇用対策を考えてはいますが、職を求める人そのものが少なく、長ねぎの共選施設でやっとの状態です。

菅 経営安定のための対策はなにが考えられますか。

組 需要に応じた米の生産です。主食用米を作りすぎれば平成26年産の概算金8,500円以下になる可能性もあります。

また、生産コストをどう下げていくのかを考える必要があります。

菅 法人と言っても栽培管理は各個人で、コスト削減よりも作業性が優先になっているのが実情です。法人全体を見る栽培管理者を配置すればできると思いますが、今後主食用米や転作物をどうやってブロック化していくのが課題です。

組 寄り添うだけでなく、どのように持続可能な農業をやっていくか。これからの農業は皆で頭を働かせないと続けていけない時代がそこまできています。栽培技術の追求や作物の選定、コスト削減など将来ビジョンをどう描くのか、考えていかなければいけません。

菅 法人としては、農地中間管理機構を通じて農地集積を進めています。皆の意見を聞き、知恵を出し合い、無理をせず将来に続く方向性を見定めます。

また、八幡地区の8法人で組織する八幡地区農業生産法人連絡協議会では、GAPの学習会を重ね、希望する法人は県版GAPの第三者認証取得に向け検討を進めています。今後も地域農業発展のため頑張っていきます。

菅 = 菅原義勝さん 組 = 阿部茂昭組合長

農事組合法人グリーンファーム寺田 菅原義勝 代表理事

昭和28年生まれ。水田面積は8.8ha(法人分7.9ha、個人分0.8ha)。水稻の他、ミニトマト「トマトベリー」、メロン、きゅうりなど園芸品目を多数栽培し複合経営。酒田市寺田で家族6人暮らし。(農)グリーンファーム寺田(水田面積23ha)の代表理事、八幡地区農業生産法人連絡協議会会長、農業生産組織連絡会議幹事、千俵の会役員としても活躍しています。

